

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590400028		
法人名	NPO法人 田万川地域サポート21		
事業所名	グループホーム めくもり		
所在地	山口県萩市大字江崎55番地		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町受理日	平成23年2月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(1) 自然の豊かな地域で広々とのんびり、静かな暮らしを送ることができる。(2) 利用者様がそれまでの生活に近い形で当グループホームで生活できるよう、様々な工夫を行なっている。例えば買い物、ご本人が植えた果樹等の収穫時期と一緒に収穫したり、動物の好きな方には、当グループホームで飼っている犬と猫の世話をしてもらい精神的な安定を図り、花の好きな方にはお部屋の花を欠かさないう気を配っている。また、田植えや稲刈りの時期に自宅地域に出かけその光景を見て頂く等。(3) 地域の方との交流をより高めるために、当グループホーム開催の講習会、家族会、バーベキュー会、花見会等、なにかにつけ地域の方々やご家族様をお招きし、交流を図ってきた。また、その結果、地域からの反応も少しずつ見られるようになった。(4) 職員の人材育成に力をいれている。研修費用の当事業所の負担、研修参加の推奨、毎月の所内研修の開催、キャリアパス制度の導入等。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

顔馴染みとなった地域の人々が立ち寄られたり、事業所の草取りに来て下さる人々と利用者が一緒にお茶を飲んだり食事をすることがあったり、月1回ボランティアの人が俳画ぬり絵や歌の教室、体操教室に来訪されるなど、利用者が地域の暮らしの延長の中で過ごせるように、地域の人々とのふれあいを大切にしたい支援をされています。理念の実践を目指し、毎月1回反省検討会を開催して自分達のケアを振り返り、毎日、勤務者全員がその日のケア目標を朝のミーティングで発表して夕方に結果報告をされて、サービスの質の向上に努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳と敬意を受けつつ、その人らしく暮らし続けられること、事業としての社会的責任を果たすこと等をモットーとして「理念」を定め、理念追及のための6項目の重点目標「介護サービスにおいて常に心がけること」を定めた。また、1日2回の申し送りの際に理念の唱和を行い、各自の目標を発表するとともに反省を行なっている。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、申し送りの時に唱和し、毎月の反省検討会で話し合って共有し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事への参加（自治会総会、環境美化の日など）、敬老会、地域の運動会などでの交流がある。また民生・児童委員や地元ボランティアによるぬくもりの環境整備活動を職員、利用者ともども一緒にし、お茶や昼食も共にしている。地域の方を含めた食事会、講習会等を開いている。	自治会の清掃活動や敬老会、運動会などに参加し、事業所の草取りに地域の人々が訪れ、野菜や果物、魚などの差し入れもあり、日常的に地域の人々と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や各種イベントを通じて、地域の人々も参加している。そこでは認知症の講演会を開催したり認知症の理解や支援方法を共有できるよう努めている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎月の反省検討会を含め、色々な場でも自己評価・外部評価の意義を伝えて職員も理解している。自己評価項目について職員の意見を求め、検討している。評価機関からの助言内容は検討会で示し、改善に取り組んだ（緊急避難食糧、用具など）。	評価の意義を理解し、管理者がとりまとめた自己評価書を職員に配布し、職員会議で話し合って作成している。評価することがケアの振り返りになると捉えている。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の意見、関係機関からの意見・情報に参考にすべき点が多くある。関係機関から他の福祉施設の状況や情報など知ることができ大いに参考になっている。	自治会長2名、市社協北支所長・次長、市総合事務所職員、市在介支援センター職員、家族、利用者、職員等で2ヶ月に1回開催し、現状報告、行事報告、利用者アンケート報告、研修、災害訓練、外部評価報告等で意見交換をしてサービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者やケアマネが参加する地域包括支援センター主催の情報交換会があり、これに参加している。これが利用者への適切なサービス提供に結びついている。市担当者からは感染症、災害防止等について詳しい情報がタイミングよく提供されている。	市の担当者と連絡を密に取るように心がけており、不明なことは助言を求めたり相談をしている。利用者の退院後の処遇について相談した事例などがある。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会をし、職員の理解が深化し、実践が推進が推進された。 「身体拘束ゼロを目指して」のマニュアルがあり、職員は入居者が拘束によって受ける心身のダメージを理解し、意識して取り組んでいる。これまで身体拘束の事態はない。	マニュアルがあり、内部研修などで全職員が身体拘束の内容や弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は鍵をかけないで見守り、外出を察知したら一緒に散歩をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での研修、定期的に所内研修において高齢者虐待防止や防止関連法等について学んでいる。また、利用者の自宅や事業所内でも職員間において、虐待防止に向け日々注意を払いながら業務にあたっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月開催される所内研修において、日常生活自立支援事業及び成年後見制度について学ぶ機会をもち、今後地域にて活用できるよう意見交換会をもった。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての契約の締結及び解約、また改定等の際には、利用者や家族等に納得いくまで説明している。また、その都度疑問等については、毎月の家族宛の手紙等の機会を使って説明、回答を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	家族へは「めくもり便り」、面会時、家族会等 で常に問いかけ、不満、苦情、意見要望など を気軽に、何でも言える雰囲気づくりを心が けている。苦情相談窓口を公開し、地元での 第三者委員（社協支所長）を定めている。外 部機関は市高齢障害福祉課、県国民健康 保険連合会、県社会福祉協議会としている。 「お声」の箱を設置する場所を、人目につく 場所に置くよう工夫した。苦情、意見、要望 が利用者様、家族様よりあった場合は、説明 すると共にその回答を施設内に公示すること としている。	面会時、電話、毎月の便り、運営推進会議、 介護計画作成時のモニタリングなどで、家族 等の意見や要望を聞き、出た意見や要望、改 善は公示し運営に反映させている。苦情相談 窓口や担当者、外部機関、第三者委員を明 示し、苦情処理手続きを定めている。意見箱 を設置している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、随時疑問や意見をもつ際には、代 表者や管理者に相談する機会があることを 伝えている。また、毎月開催される反省会に は理事長および施設長が参加し、定期面談 時に運営に関する意見や提案事項を話しあ う機会を設けている。	代表者や管理者は、毎月反省検討会を開催 して職員から意見を聞き、出た意見や提案を 検討して運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	毎月反省会を開催し、反省と今後の課題を 話し合い、その機会では職員は何でも共有 できる場としている。また、定期的ないし必要に 応じて随時面談を行い、代表者や管理者と 職員間で職場環境・条件の改善、整備に努 めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の 確保や、働きながらトレーニングしていくことを進 めている	本年よりキャリアパスを使用し、能力に応じた 報酬、能力強化に向けた研修計画を組み、 効率的かつ効果的な人材育成方法への取り 組みを開始した。そのために職員がホーム ヘルパー、介護福祉士などの資格取得や研 修に必要な経費等を法人が負担している。 認知症介護実践研修、管理者研修、人権研 修など、山口県ひとつくり財団や市が主催す る研修へ積極的に職員を参加させている。	内部研修や外部研修は勤務の一環として段 階に応じて参加し、研修内容は月1回の反省 検討会で復命している。自己研鑽の雰囲気 づくりをし、資格取得も推奨している。	

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、月一回の同業者を含む包括支援センター主催の情報交換会があり、これに参加している。職員間交流は各種研修を通じて知り合った県内の他事業所職員との交流がある。県内の同業者連絡協議会に加入している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される利用者様の戸惑い、不慣れな環境からくる不安感、孤立感をなくすために、利用開始前に自宅に伺ったり、施設見学して頂くなどで不安を解消するとともに、入居後は本人が納得、安心するまでじっくりと耳を傾けるようにしている。 病院に入院されている場合は、要望等を伺うため入院先にも赴いている。 入居前の見学や面談を原則としている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの利用にあたっては、家族の要望、戸惑い、不安等をじっくり聞き、納得できた上で利用を開始して頂くよう接している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の現状を十分把握し、グループホームとしてどのようなサービスを提供できるのかを検討し、当施設で行なえないサービスについては他福祉施設なども含め、地域資源を柔軟に活用できるよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に家事、調理・配膳・下膳、掃除、洗濯物干しなど、生活をする上で必要なことは利用者様にも一緒にして頂くようにしている。普段のかかわりの中で利用者様から学ぶことが多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	無理のない範囲でできるだけ、ご家族には利用者様ご本人に面会にきて頂くようお願いをし、利用者様と家族の絆が持続できるよう、家族便りなどでも働きかけを行っている。面会時にはご家族と一緒にお茶を頂く。入居後もそれまでの馴染みの人や場の関係が断ち切れないように知人、友人の面会をお願いしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様同士、出身地域の近い方にはできるだけ親しくなれるよう工夫したり、墓参りや出身地域近辺へのドライブをするなど、関係がとぎれないよう工夫し、孤立せず利用者同士が支えあえるように努めている。	これまでの暮らしぶりのアセスメントを行い、馴染みの美容院やカラオケ大会への送迎、移動図書館の利用、ふるさと訪問などを行い、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	寂しがりやの利用者様の場合、自然な範囲で他の利用者様と行動を共にできるよう、テーブルの席を変えたり、一緒に家事等ができるよう工夫している。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、利用者様の次の移動先の病院や特別養護老人ホームに面会にいたり、亡くなられた利用者様のご家族に対しては、家族会に来て頂き、介護体験を話して頂く機会を設けたり、手紙を出したりするなどして、ご家族の悲しみを共有するなど良好な関係を保っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話、表情・態度の中からも本人の思いをつかみ、ケアプランに生かしている。また、本人から直接、思いや意向を言葉として表せない時は、日々の行動や表情からくみ取ったり、意向調査を行うとともに、家族等からの情報も得ている。	日々のかかわりの中で思いや意向の把握に努め、言葉や行動などを介護記録に記入して職員間で共有している。把握が困難な場合は、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護記録ファイルに一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の記録を綴じ、常時職員が確認・把握できるようにしている。なお、入居後に得た過去の情報はその都度追記している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「できること・できないこと表」を定期的に更新し、残存能力の把握と、快適な生活を送るために必要な支援は何かを検討・把握している。なお、以前できたことができなくなっていくことに対しては、その不安を取り除けるよう、感情を共有しじっくりと接している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、かかりつけ医師、職員、管理者と計画作成担当者を交えてケア会議を持つことを原則としている。かかりつけ医師が不参加の場合は、意見書をあらかじめもらっている。家族や本人が不参加の場合は予め意見・希望を伺い、本人本位のケアプランを立てている。	モニタリングをもとに介護計画を見直し、ケアカンファレンスを開催して家族や主治医と話し合い、本人や家族の希望、主治医の意見などを反映した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録は、職員が出勤した際に目を通しており、申し送りでも情報共有に努めている。また、同記録はケアプランの項目に沿った記述方法を採用している。日々のプラン実施状況も記録している。また毎月の反省会・研修会等で利用者様の情報を補足・共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	花好きの利用者様にはいつも花のある環境を提供するため、花を買ってきたり野花を摘んできたり、職員の家の周りにある花をもってきたりしている。また、動物好きの利用者様のために、猫や犬を生活環境の中におくことで潤いのある生活を送れるようにするなど、個々のニーズに対応している。遠方から家族や知人が来所される際は、宿泊もできる。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会、移動図書館、コミュニティセンターなどが提供するサービスを有効に活用できるよう情報収集・交換を行ったり、実際に利用している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重して、入居後のかかりつけ医を決定。家族が遠隔地に居住のケースもあり、基本的に当事業所が代行で受診介助しているが、できるだけ家族同行の受診をお願いしている。訪問診療もある。利用契約時に、受診介助について説明している。なお、かかりつけ医からの情報はその都度家族に伝えている。	かかりつけ医の希望を聞き、協力医療機関やそれぞれのかかりつけ医に受診できるように支援し、適切な医療を受けられるように取り組んでいる。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、気づきの点について看護職に相談し、適切な受診や看護をうけられるようしている。なお、看護師とは常に連絡をとれる体制をとっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段より、かかりつけ医、協力医との良好な関係を築くべく努力している。入院時には必ず情報提供書を授受している。また、口頭においても詳しく伝えることとしている。できるだけ早期に退院できるよう連携に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約に当たり、重要事項説明書に明記している内容を説明し、重度化した場合やターミナルケアにおける家族の希望を聞くとともに、対応に関する同意書を頂いている。また、本人の状態変化に応じて家族・本人の希望を確認している。	重度化や終末期に向けた方針を説明し同意を得ている。重度化した場合は早い段階から家族や主治医、看護師と話し合い方針を共有し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット記録や事故報告書に記録し、事業所の事故対策委員会や毎月の反省検討会で話し合い、一人ひとりの状態に応じた事故防止に努めている。また、毎日の嚙下体操や服薬支援、室内での布草履を履くことによる筋力アップなどで事故防止に備えている。また、定期的に誤嚥時対応や緊急時に備えてAEDの訓練を行っている。また、事故防止に向けて所内において定期的及び随時、一斉にチェックしている。	マニュアルを作成し、ヒヤリはっと報告書や事故報告書に記入して検討し、日頃から筋力アップや嚙下体操を行なって一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の訓練を定期的に実施している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な所内研修において、消防署員や消防機材業者の参加要請をし、通報、消火、避難訓練などを行っている。	年6回避難誘導の訓練を行ない、スプリンクラーも設置している。消防署員の指導のもとで通報・消火・避難訓練も実施している。地域の協力を働きかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護目標の第一にその人らしさを尊重し、その人本位の介護。尊厳と尊敬の念を掲げている。うっかり、あるいは群集心理から不用意な言動が出かねないことなど、あらゆる場で強調している。また、個人情報の取扱には細心の注意を払い、来訪者、ボランティアへも注意を喚起している。プライバシーの保護マニュアルがある。	マニュアルがあり、一人ひとりの生活歴を把握して誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。来訪者に対しても利用者のプライバシーの確保に気配りをしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは利用者様の意向を聞き、行動を起しづらい場合や表現しづらい場合は、本人の訴えを言語、非言語コミュニケーションを通じて理解し、利用者本位で決定できるよう促している。自己決定が困難な利用者には、幅広い選択肢の提供や本人の思いの把握に努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のリズムはあるが、その日のスケジュールは利用者本位で考えている。買い物、散歩、横になって休む、部屋で休むなど、一人一人の状態や思いを大切にしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の日常的な服装、好み、着こなし方を尊重し、本人にとって心地よい服装ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には配膳、盛り付けを手伝って頂いたり、野菜の下ごしらえをして頂いている。また、好きな食事をお聞きし、献立メニューに反映している。季節、行事の手作り料理やお菓子を召し上がって頂いている。	三食とも事業所で調理している。食事は美味しいと好評で利用者は職員と一緒に配膳などの手伝いをしている。職員も一緒に食事をして、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分や食事摂取量をチェックし、記録している。管理栄養士に献立をみてもらって専門的なアドバイスをもらっている。牛乳の嫌いな人にはコーヒー牛乳、偏食の人には刻み込んだり、大皿に盛り付けて見た目の変化をつけるなどの工夫をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず利用者様全員に声かけし、口腔ケア支援を行っている。義歯、自分の歯、歯のない方、それぞれに応じた口腔ケアをして頂いている。その際、適切に歯ブラシ、義歯等の取り扱いができるよう支援している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの利用者様の排泄パターンや習慣に合わせた排泄介助を行なっている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に合わせて声かけや誘導を行い、排泄の自立に向けて支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質食材を使うとともにおやつにはヨーグルトや果物等を召し上がって頂いている。また、日中の活動もできるだけ利用者様本人のレベルや状態に合わせて、屋内外での活動（散歩、草取り、ボールを使用するゲームなど）を積極的に頂くよう工夫している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日15時から19時頃までとしているが、午前中の中入浴も利用者様の希望に合わせて可能で、入浴を楽しめるよう支援している。入浴したくない人には、時間を変えたり、職員がかわって声かけをするなどの工夫をしている。ゆずやみかん風呂も季節に合わせて楽しんで頂いている。	入浴は毎日15時から19時までとしているが午前中の中入浴も可能で、時々柚子湯やみかん湯などにして楽しんでいる。入りたくない人には声かけを工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の昼寝はご本人の希望にあわせ、場所も自室であったり居間のソファであったり、もっとも快適に感じる休息をとって頂いている。夕食後は居間で談話、くつろぐ居室での祈りなどその人の生活リズムが整えられ、気持ちよく睡眠をとれるよう努めている。また、必要に応じて添い寝、話し相手等の対応もすることもある。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬の効果、副作用等の内容をいつでも見て理解できるように介護記録の中にとじてある。医師による処方箋の変更があれば、その都度全職員に申し送る。さりげなく、かつ注意深く観察して変化があれば記録し、必要に応じて医師に報告している。利用者への実際の服薬支援は特定の職員が行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの生活歴や趣味、希望すること等を介護記録に綴じてあり、随時職員は確認できるようにし、ご本人が張り合いや喜びを感じながら生活できるよう適切な支援を行えるよう工夫している。	俳画ぬり絵や歌をうたうこと、体操、花見、家事(掃除、洗濯、食事の下準備)、家庭菜園、芋ほり、犬猫の世話など、活躍できる場면을沢山つくって気晴らしや張り合いのある日々が送れるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて、ご本人のご希望にあわせて行き先を決め、変化のある生活を送れるよう支援している。例えば日常的な散歩、ドライブ(ふる里訪問、墓参り、景勝地、田植え見学、運動会等)に出かける。遠隔地へのドライブは家族様にお願いすることとしている。	散歩や花見、ドライブ、買い物、菜園づくりなど、その日の希望にそって外出の支援をしている。墓参りなどは家族の協力を得ながら外出の支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い帳を作り、利用者様の金銭管理能力に応じて、職員が定期的な残額検算を行い、定期的にご家族にも内容を報告している。買い物のご希望があれば、職員が同行し、できるだけ自力で買い物を完結できるよう、さりげなく介助している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望に合わせてご家族に電話をかけて頂いたり、手紙を書いて送られるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、利用者様や職員が作った季節の作品、もんぺ絵など懐かしいパッチワーク作品、掛け軸、季節の花が飾られ、畳コーナーにこたつ、フローアーにテーブル、椅子、ソファ、テレビ等があり、適切な温度・明るさ、照明、新鮮な空気、快適な音（静けさ）等に配慮して、家庭的な雰囲気できつろいで過せるよう工夫している。	共用空間は明るく、随所に季節の花や置物があり、ソファに座って外の景色が眺められ、調理の様子やテレビを見ながらくつろげ、生活感や季節感があり、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の居間では、畳コーナー、TV、ソファ、観葉植物、季節の花や装飾品等を配置し、気のあった利用者様同士、また一人でのんびり過せるよう、変化のある空間の創出に努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は十分広く、家族ともども団欒や宿泊出来るスペースがある。利用者の馴染みの物、家族や思い出の写真を出来るだけ持ち込み、安心して居心地良い部屋になるよう配慮している。仏壇を居室に置いている利用者にはめくもり農園の季節の花や野菜、朝のご飯などのお供えをして頂いている。	居室は広く、窓から見える場所に桜の木や萩のしだれ花などが植えてあり、季節ごとの景色が楽しめる。馴染みの家具や仏壇などが持ち込まれ、絵や花、利用者の作品や写真を飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所のバリアフリー（玄関やトイレ、風呂の段差など）や手すり、明確な色の違いを出して注意を引く箇所（玄関のあがり口）を設けている。階段には音声つきのナジを設置し、転落注意を促している。反対に、小さな階段はあえて残し、その階段を上り下りできる利用者様には日常的に使用して頂くよう勧めている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム めくもり

作成日：平成 23年 1月 29日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	人材不足 (介護の質の低下)	看護職の採用 (現在は2部門兼務) 介護職の確保	・ハローワークの支援 ・コネでさがす	6ヶ月
2	13	職員の過重労働	・1の達成による過重労働の緩和 ・事務量の軽減	1による	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。